

集』

第1巻 1981.5.25

誕生

象

The Affair of Two Watches

刺青

麒麟

信西

彷徨

少年

幫間

風

秘密

惡魔

あくび

朱雀日記

糞

続惡魔

第2巻 1981.6.25

恐怖

少年の記憶

恋を知る頃

熱風に吹かれて

捨てられる迄

憎念

春の海辺

餽太郎

金色の死

お艶殺し

懺悔話

第3巻 1981.7.25

創造

華魁

法成寺物語

お才と巳之介

独探

神童

鬼の面

第4巻 1981.8.25

恐怖時代

亡友
美男
病魔の幻想
人魚の嘆き
魔術師
既婚者と離婚者
鳶姫
或る男の半日
玄弔三蔵
詩人のわかれ
異端者の悲しみ
晩春日記
十五夜物語
ハツサン・カンの妖術
ラホールより
第5巻 1981.9.25
女人神聖
仮装会の後
檻櫻の光
兄弟
少年の脅迫
前科者
人面疽
二人の稚児
金と銀
白昼鬼語
人間が猿になつた話
第6巻 1981.10.25
小さな王国
魚の李太白
嘆きの門
柳湯の事件
美食俱楽部
母を恋ふる記
蘇州紀行
秦淮の夜
呪はれた戯曲
西湖の月
富美子の足
真夏の夜の恋
或る少年の怯れ
或る漂泊者の傭
秋風
天鷺絨の夢

第7巻 1981.11.25
途上
検閲官
鮫人
蘇東坡
月の囁き
私
不幸な母の話
鶴唳
AとBの話
廬山日記
生れた家
或る調書の一節
第8巻 1981.12.25
愛すればこそ
或る罪の動機
奇怪な記録
蛇性の姪
青い花
永遠の偶像
彼女の夫
或る顔の印象
お国と五平
本牧夜話
愛なき人々
白狐の湯
アエ・マリア
第9巻 1982.1.25
肉塊
神と人の間
雛祭の夜
港の人々
無明と愛染
腕角力
第10巻 1982.2.25
痴人の愛
マンドリンを弾く男
蘿洞先生
二月堂の夕
赤い屋根

馬の糞
為介の話
友田と松永の話
一と房の髪
金を借りに来た男
上海見聞録
上海交遊記
青塚氏の話
第11巻 1982.3.25
白日夢
日本に於けるクリップン事件
ドリス
顯現
黑白
続蘿洞先生
卍(まんじ)
第12巻 1982.4.25
蓼喰ふ蟲
三人法師
乱菊物語
第13巻 1982.5.25
吉野葛
盲目物語
紀伊ノ国ノ狐憑ク漆搔キニ語
覚海上人天狗になる事
武州公秘話
青春物語
蘆刈
春琴抄
第14巻 1982.6.25
葦崎氏の口よりシユパイヘル・シユタインが飛び出す話
顔世
夏菊
聞書抄
猫と庄造と二人のをんな
初昔
きのふけふ
第15巻 1982.7.25

細雪 上巻
細雪 中巻
細雪 下巻
第16巻 1982.8.25
磯田多佳女のこと
同窓の人々
「湯浸亭」のことその他
都わすれの記
越冬記
月と狂言師
京洛その折々
少将滋幹の母
A夫人の手紙
疎開日記
乳野物語
小野篁妹に恋する事
忘れ得ぬ日の記録
第17巻 1982.9.25
吉井勇君に
或る時
上山草人のこと
幼少時代
過酸化マンガン水の夢
鍵
老後の春
親不孝の思ひ出
第18巻 1982.10.25
残虐記
四月の日記
高血圧症の思ひ出
夢の浮橋
おふくろ、お関、春の雪
三つの場合
親父の話
当世鹿もどき
第19巻 1982.11.25
瘋癲老人日記
四季
台所太平記
雪後庵夜話

京羽二重
おしゃべり
七十九歳の春
第20巻 1982.12.25
「門」を評す
活動写真の現在と将来
芸術一家言
阪神見聞録
饒舌録
岡本にて
現代口語文の欠点について
懶惰の説
恋愛及び色情
「つゆのあとさき」を読む
佐藤春夫に与へて過去半生を語る書
私の見た大阪及び大阪人
正宗白鳥氏の批評を読んで
芸談
装釘漫談
文房具漫談
直木君の歴史小説について
陰翳礼讃
第21巻 1983.1.25
東京をおもふ
春琴抄後語
文章読本
私の貧乏物語
大阪の芸人
半袖ものがたり
廁のいろいろ
旅のいろいろ
源氏物語の現代語訳について
所謂痴呆の芸術について
客ぎらひ
雪
早春雑記
メモランダム
ラヂオ漫談
春団治のことその他
老いのくりこと
創作余談
明治回顧
気になること
文壇昔ばなし

或る日の問答

にくまれ口

第22巻 1983.6.25

隨筆小品

「夜の宿」と「夢介と僧と」と

そぞろごと

人の親を見て

劇場の設備に対する希望

ノートブックから

父となりて

発売禁止に就て

貢の十人斬り

私の初恋

詩と文字と

創作の気分

夏日小品

更紗

宝石

香

漱石

十千万堂主人

鶴牛

梅雨の書斎から

浅草公園

朝鮮雑観

早春雑感

支那劇を観る記

伊香保のおもひで

支那の料理

反古箱

或る時の日記

其の歓びを感謝せざるを得ない

映画雑感

日本の活動写真

「カリガリ博士」を見る

映画のテクニック

支那趣味と云ふこと

女の顔

歌四首

頭髪、帽子、耳飾り

縮緬とメリンス

「永遠の偶像」の上演禁止

脚本検閲に就いての注文

私のやつてゐるダンス

稽古場と舞台の間

「愛すればこそ」の上演

手記
上方の食ひもの
萩原君の印象
洋食の話
映画化された「本牧夜話」
滝田君の思ひ出
都市情景
釈明
栗原トーマス君のこと
「九月一日」前後のこと
関西文学の為めに
芥川君と私
いたましき人（芥川龍之介追憶）
東西味くらべ
敏先生のおもひで
故人と私（小山内薰追悼）
東西美人型
関西の女を語る
私の姓のこと
カフェー対お茶屋・女給対芸者
料理の古典趣味
春、夏、秋
草人を迎へに行く日
春寒
秋、冬、春
大衆文学の流行について
鳥取行き
天狗の骨
倚松庵十首
追悼の辞に代へて（直木三十五追悼）
職業として見た文学について
映画への感想－「春琴抄」映画化に際して－
蛎殻町と茅場町
翻訳小説二つ三つ
泉先生と私
純粹に「日本的」な「鏡花世界」
旧友左団次を悼む
シンガポール陥落に際して
白秋氏と私
奉天時代の塙太郎氏
露伴翁追悼講演会に寄す
追憶（菊池寛追憶）
「細雪」回顧
嶋中君と私
「お国と五平」所感
茂山千作翁のこと
新春試筆
「暁の脱走」を見る

久米君の死の前後
「すむつかり」贅言
私の「幼少時代」について
歐陽予倩君の長詩
あの頃のこと
ふるさと
秦豊吉君のこと
「法成寺物語」回顧
幼少時代の食べ物の思ひ出
千万子抄
伊豆山放談
日本料理の出し方について
吉井勇翁枕花
古川緑波の夢
若き日の和辻哲郎
女優さんと私
わが小説－「夢の浮橋」
武林君を悼む
野崎詣り（池崎忠孝回想）
京都を想ふ
千万子からの雪だより
「撫山翁しのぶ草」の巻尾に（笠沼源之助追悼）
「越前竹人形」を読む

第23巻 1983.7.25

序跋・雑篇
藁前書
藁後書
藁序
藁序
麒麟序
酒
創作前後の気分
多少読んで居る人
金色の死序
一人一景（旅の印象）
「少年世界」へ論文
異端者の悲しみはしがき
異端者の悲しみ序
口の辺の子供らしさ
蛇酒に序す
果して顔が好いか
私の家系
煉獄序
二人の芸術家の話前書
病める薔薇序
蘇州紀行前書

支那旅行
南京夫子廟
谷崎潤一郎氏の書簡
富美子の足断書
佐藤春夫君と私と
性質の違つた兄と弟
鮫人附記
鮫人作者記
「鮫人」の続稿に就いて
月の囁き前書
半公推選文
不幸な母の話断書
「十五夜物語」について
墮落作者記
読むことすら嫌ひ
小説も書き活動写真にも力を注ぐ
感覚的な『悪』の行為
妹
「肉塊」の筆を執るに際して
生きて居る人間にはあるが
名妓の持つ眼（波多野秋子印象）
横浜のおもひで前書
無明と愛染作者断書
痴人の愛掲載予告－最後まで熱をもつて
「痴人の愛」の作者より読者へ
黒髪序
痴人の愛はしがき
現代戯曲全集谷崎潤一郎篇跋
西洋と日本の舞踊
現代小説全集谷崎潤一郎集著者年譜
現代日本文学全集谷崎潤一郎集序詞
現代日本文学全集推薦文
我が日・我が夢序
芥川全集刊行に際して
名士と食物
浦路夫人の内助
明治大正文学全集谷崎潤一郎篇解説
黑白序にかへる言葉
黑白完結ことわり
「蓼喰ふ蟲」序詞
春秋満保魯志草紙序
ねこ
小山内君の思ひ出
現代生活考序詞
月ヶ瀬
世界最大の文学的宝庫
猫－マイペット
大衆小説乱菊物語はしがき

素顔のハリウッドはしがき

離婚挨拶

大衆小説乱菊物語前篇終り作者記

恋愛及び色情断書

辻(まんじ)緒言

盲目物語はしがき

倚松庵隨筆序

青春物語緒言

岡田時彦弔辞

夏菊休載に就いて

『文章読本』発売遅延に就いて

聞書抄作者の言葉

東京にて

聞書抄(第二盲目物語)初出巻頭

明治一代女序

東京にて(夏と人)

源氏物語序

潤一郎訳源氏物語例言

えびらくさんのこと

偶感

三輪そうめんの歌二首

易学史序

潤一郎訳源氏物語奥書

莫妄想

文楽首の研究序

細雪上巻原稿第十九章後書

聞書抄断書

永井荷風氏書翰後書

蓼喰ふ蟲あとがき

稚児序

「まんじ」に就て

幼年の記憶

祇園序

安倍能成氏への書翰

少将滋幹の母作者の言葉

嶋中雄作弔詞

「細雪」瑣談

藤壺

懷石料理(炉篇)序詞

少将滋幹の母序文

「少将滋幹の母」上演に際して

源氏物語草子序

源氏物語新訳序

「お遊さま」を見て

花の段

冒險的な試み

盲目物語の原作者として

アルペンフレックス推薦文

羨望にたへぬ全集

谷崎と私序

現代日本の百人写真説明

墨塗平中

蓬生

八千代さんのことなど

佐多女聞書序文

余白ある人生はしがき

春日 よ序文

谷崎潤一郎より永井荷風へ

鑑賞者の一人として

源氏物語の新訳を成し終へて

妻を語る

お茶懐石の粋

「蓼喰ふ蟲」を書いたころのこと

伊藤整全集推薦文

映画のことなど

源氏物語の引き歌序

「十五夜物語」の思ひ出

「緑波食談」に寄す

新訳源氏物語の愛蔵本について

東京の正月

鴨東綺譚著者の言葉

嶋中鵬二氏に送る手紙

菊がさね序に代へる言葉

潤一郎新訳源氏物語の普及版について

辻留銀座店開店にさいして

「月と狂言師」のこと

『鍵』本文訂正について

幼少時代はしがき

古典は原文で読むのがほんたう

私の好きな六つの顔

伊豆山にて

「雑談明治」を読む

歌々板画卷に寄せる言葉

新劇その昔序

碧い眼の太郎冠者序にかへて

「親不孝の思ひ出」中断のおわび

偶感（谷崎潤一郎全集刊行に際して）

谷崎潤一郎全集序

阿呆伝序

私と国歌大観

むさうあん物語序

「少将滋幹の母」再演について

潤一郎訳源氏物語序にかへて

「貴多川」開店祝

京舞礼讃

新版幼少時代序

あの頃のこと（山田孝雄追悼）

少将滋幹の母断書

銀婚式披露挨拶

敏介とピン助

「細雪」を書いたころ

幼き日の六代目

当世鹿もどきはしがき

潤一郎訳源氏物語愛蔵版序

和辻君について

無想庵君のために

舌代（喜寿挨拶）

お化粧室（安田輝子さんを推薦する）

私と中央公論

台所太平記掲載予告－週刊誌は三度目

新訳に期待

今度は是非見に行く

思ひ出

吉川英治君のこと

「ダンスに強くなる本」の序

むずかしい仕事

古典再現

佐藤春夫のことなど

佐藤春夫と芥川龍之介

路さんのこと

菅原彦氏の思ひ出

「板極道」に序す

新々訳源氏物語序

円地文子さんのこと

舞台の衣裳に寄せて

淨瑠璃人形の思ひ出

補遺

悪魔（続篇）前書

汽車の窓から

方今文壇の大先達

労作即娛樂

「饒太郎」断り書

「武州公秘話」続篇について

大切な霧囲気序

上方舞大会について

黒髪序

双葉会趣意書

奥村富久子さんについて

六世歌右衛門に贈る言葉

座右において用の足せる一冊本の辞書

追憶

リンディー

竹柏園大人の文藻

形見の品々にまつはる思ひ出

こんどの機会に
八重ちゃん

第24巻 1983.8.25

初期小品
狹の葬式
うろおぼえ
死火山
初期文章
「学生俱楽部」第2号
学生の夢
「学生俱楽部」第3号
楠公論
靖国神社
東京
一休禅師
日本歴史雑話
五月雨
玉取り姫
「学友会雑誌」第35号
牧童
「学友会雑誌」第36号
護良王
観月
残菊
歳末の感
「少年世界」第8巻第1号
時代と聖人
「少年世界」第8巻第3号
日蓮上人
「学友会雑誌」第37号
厭世主義を評す
「少年世界」第8巻第8号
海
「学友会雑誌」第38号
道徳的觀念と美的觀念
小島高徳桜樹に題する図に
「学友会雑誌」第41号
夏季休暇
無題録
発火演習記事西軍記事
「学友会雑誌」第42号
春風秋雨録
友におくるうた
歳末に臨んで聊学友諸君に告ぐ
「学友会雑誌」第43号
文芸と道徳主義

みづぐき
述懐
「学友会雑誌」第44号
起てよ、亜細亜
野いちご会詠草
春期撃劍部小会記事
懸賞課題に就きて
「学友会雑誌」第45号
うたほぐ
くさぐさ
「校友会雑誌」第164号
新任の辞
前号批評
「校友会雑誌」第165号
前号批評
第17周年寄宿寮記念祭記事
「校友会雑誌」第167号
前号批評
擬国会記事
「校友会雑誌」第168号
前号批評
「校友会雑誌」第170号
前号批評
仲秋の季節
文芸欄投書家に告ぐ
「校友会雑誌」第171号
前号批評
「校友会雑誌」第172号
前号批評
「校友会雑誌」第173号
前号批評
「学友会雑誌」第51号
増鏡に見えたる後鳥羽院
作文
翻訳
ウキンダミーヤ夫人の扇（オスカ－・ワイルド）
ボードレール散文詩集
タゴールの詩
グリーブ家のバアバラの話（トマス・ハアディ）
カストロの尼（スタンダール）
第25巻 1983.9.25
書簡（1）（明治40年～昭和25年）
第26巻 1983.11.10
書簡（2）（昭和26年～昭和40年）

書簡補遺 (1)
書簡補遺 (2)
書簡番号索引
* 年譜
* 著作年表
* 書誌
* 題名索引
第27巻 1983.2.25
新々訳源氏物語 卷一
例言
桐壺
帚木
空蝉
夕顔
若紫
末摘花
紅葉賀
花宴
葵
賢木
花散里
須磨
明石
澪標
第28巻 1983.3.25
新々訳源氏物語 卷二
蓬生
閨屋
絵合
松風
薄雲
槿
乙女
玉鬘
初音
胡蝶
螢
常夏
篝火
野分
行幸
藤袴
真木柱
梅枝

藤裏葉

第29巻 1983.4.25

新々訳源氏物語 卷三

若菜 上

若菜 下

柏木

横笛

鈴虫

夕霧

御法

幻

雲隱

匂宮

紅梅

竹河

橋姫

第30巻 1983.5.25

新々訳源氏物語 卷四

椎本

総角

早蕨

寄生

東屋

浮舟

蜻蛉

手習

夢浮橋

